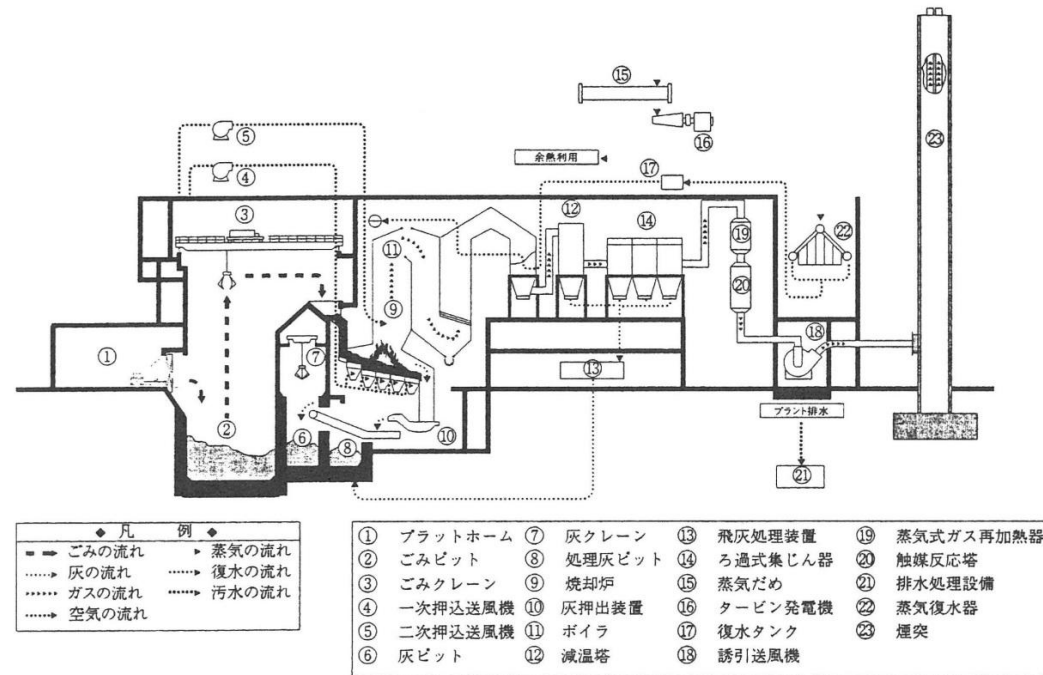


【焼却施設種類の解説】

①ストーカ式

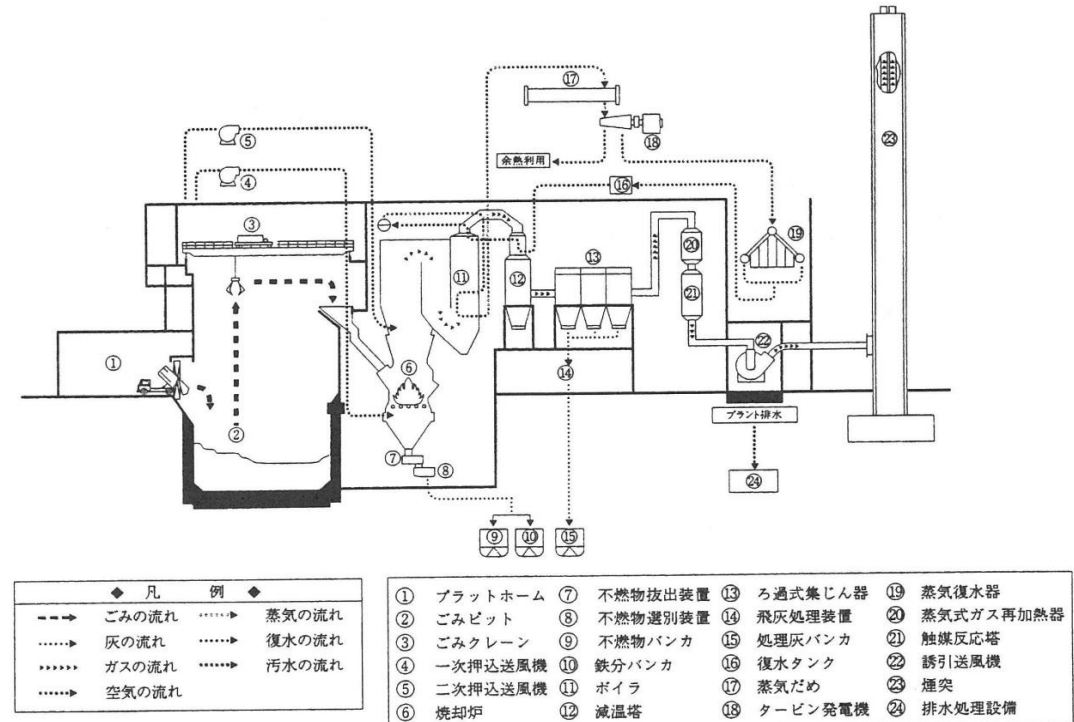
ごみをストーカー*の上で転がし、焼却炉の上部からの輻射熱で乾燥、加熱し、攪拌、移動しながら燃やす仕組みの焼却炉。国内の焼却炉で最も多く使われているタイプ。

*ストーカー⇒「火格子」とも呼ばれるごみを燃やす場所。下から空気を送り込みごみをもえやすくするもので、階段状で各段が前後に摺動運動するものが一般的である。



②流動床式

加圧した空気を下から上へ向けて吹き上げるなどして流動化させた高温の砂の中でごみを燃やす仕組みの焼却炉。炉に砂を充てんし、炉の底から熱風を送って砂を加熱する。高温の砂を空気で攪拌し、この中に破碎したごみを投入して燃やす。



③溶融炉式

製鉄の高炉技術を応用し、ごみを熱分解した後、灰、不燃物を溶融し、減容化する施設。

溶融することにより液状化した無機物を冷却して溶融固化物を精製するが、発生したスラグ、メタル共再資源化に利用される。

